

フォーム印刷

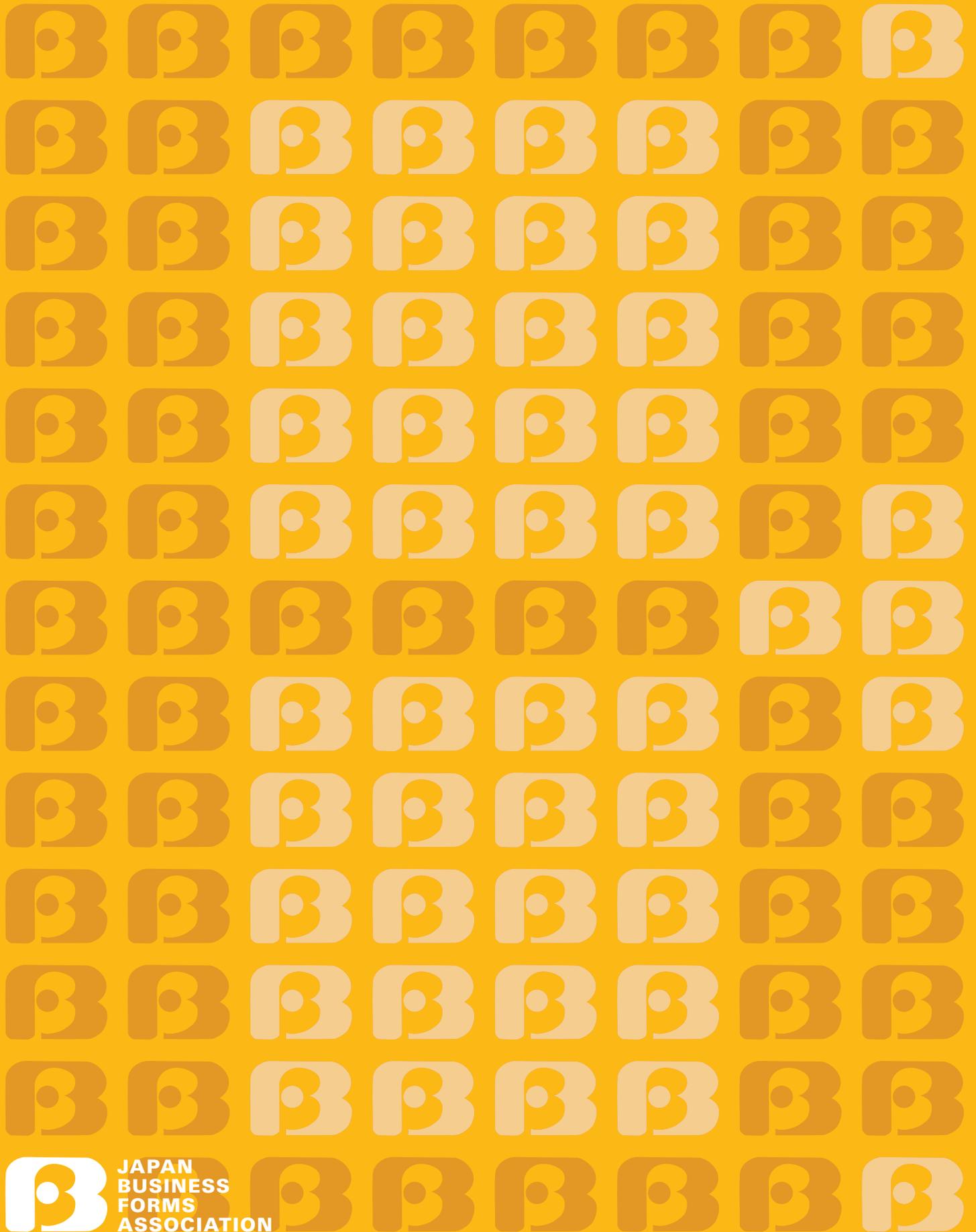
日本フォーム印刷工業連合会会報

2017.1 No.390

発行 日本フォーム印刷工業連合会

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館

TEL 03-3551-8615 FAX 03-3555-8466 URL <http://jbfa.jp>



技術委員会

技術セミナー「印刷自動化への挑戦」を開催

技術委員会(福武委員長)は10月4日、株式会社相互(東京・江東区塩浜)で、技術セミナー「印刷自動化への挑戦」を開催した。

小森コーポレーション製のリスロン4色機のインキングを、アイマー・プランニング(株)のJ-COLORシステムに改造された枚葉印刷機の刷出しのデモンストレーションを見学、同システムをビジネスフォーム印刷機に導入した高速紙工業(株)と、トッパン・フォームズ(株)、さらに、(株)相互様の3社から導入経緯と導入効果の報告を行った。

印刷産業において、従来の印刷機の生産性の向上や、経験や勘に頼ることのない印刷の自動化が求められている。しかし、印刷設備の全面的な更新や多額の設備投資が難しい現状もある。そこで、今回のセミナーでは、すでに8年前になるが、2008年の技術セミナーでも取り上げたアイマー・プランニング(株)が開発・販売しているJ-COLORシステムを再度取り上げ、印刷の現場での課題解決の可能性をデモンストレーションによって検証した。現在のJ-COLORシステムは、AR(絵柄面積読取システム)、IPC(インキ供給量自動制御システム)、DAS(インキ濃度管理システム)、AFC(自動インキつぼ洗浄システム)、ACC(自動インキ注入システム)、から成り立っている。

セミナー開講にあたり福武技術委員長からの挨拶の後、アイマー・プランニング(株)代表取締役社長の知識三富氏と、会場の提供と、実機見学をさせてい



セミナー会場

ただく(株)相互取締役の佐野誠氏から挨拶をいただいた。佐野氏は「印刷業界の先行きが不安定な中で、新規の設備投資をすることは非常にリスクがある。そこで、既設の印刷機にアイマーのシステムの導入検討を行なった。古い印刷機をリニューアルし、高性能機として扱うことができるようになったので、大きな競争力が得られた」と述べられた。

そして、「J-Color System」の導入効果報告を、高速紙工業(株)、トッパン・フォームズ(株)、(株)相互の3社からいただいた。報告者及び報告の要旨は次の通り。

■高速紙工業(株) 常務執行役員 小山 初男氏

平成15年にIPC2を印刷機に取り付けたのがJ-COLORシステム導入の最初だ。この時は色の読み取りは目視で行っていた。その後導入したX-Rite(濃度計)とIPC4の組み合わせで、インキ濃度の読み取りとインキ量の自動コントロールが可能となった。さらに、B-CON5000((株)ニレコ製の刷色濃度管理を持った印刷品質検査装置)とIPC4の組み合わせで、インキ量調整がマニュアルから自動になり、最初に導入したシステムより、色合わせ調整時間も120分から10分に短縮され、刷出し損紙も6,000～8,000m出していたものが、1,000mに削減されたと報告した。

■トッパン・フォームズ(株) 主任 小林 誠氏

J-COLORシステムとしてIPC(インキ供給量自動制御システム)を導入し稼働に入った。しかし、AR(絵柄面積読取システム)が未導入であったため、リピート製品では色合わせの自動化がなされたものの、初めてのオーダーの色合わせは、作業者の勘による作業が残ってしまい、標準化とは程遠い作業になってしまった。そこで、未導入のARを導入した。これによりプリプレスのデータから絵柄面積を数値化し、このデータをIPCに転送することで、インキ供給量の自動化がなされ、色合わせの標準化が確立した。J-COLORシステムの導入に於いては、IPC(インキ供給量自動制御システム)+AR(絵柄面積読取システム)での組み合わせは必須である。



実機デモ見学

■ (株)相互 取締役 管理部長 宗廣 達男氏

J-COLORシステムのうち、弊社ではIPC、AR、AFC、ACCを採用している。導入にあたっては業務内容に基づくデモを見学させていただき、その結果から既設の古い印刷機を再生することで、設備の効率化が図れることを確信した。そこで、今年で16年目を迎える菊全四色機に搭載する決意をした。

このJ-COLORシステムの導入により、これまでの濃度調整中心のアナログオペレーションから解放され、濃度以外の印刷品質・色品質の安定に注力できるようになった。

以上3社からの報告終了後、(株)相互様の作業現場に入り、J-COLORシステムを搭載した菊全四色枚葉印刷機で、ローラー上にインキがない状態から連続1,000枚の連続印刷で刷出し立ち上がり確認。インキつぼ洗浄からインキ交換までの全自動のデモンストレーションを見学。参加者は刷り出しの早さ、極小絵柄での刷色濃度の安定性等、全自動の工程を目の当たりにして、J-COLORシステムの性能を実感された。

参加者アンケートでも会員企業から導入を検討したいとの回答もあり、技術委員会として掲げた「印刷自動化への挑戦」の目的も達成されたように思う。

市場調査委員会

2016年度 「市場アンケート調査報告セミナー」を開催

市場調査委員会(石井啓太委員長)は、11月25日に「市場アンケート調査報告セミナー」を開催した。

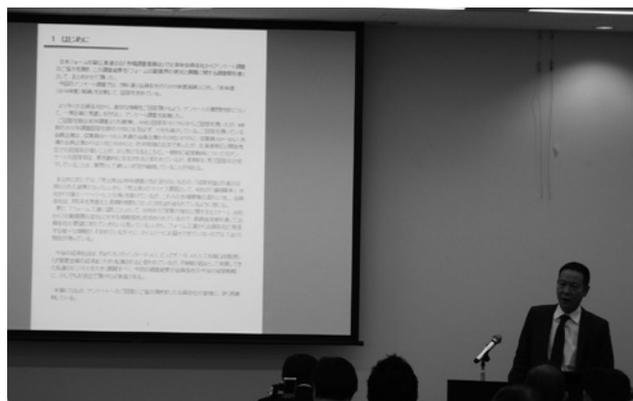
このセミナーでは、このほど発刊された「2016年度版フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」について、市場調査委員長の石井啓太が解説した。

また、今話題のマーケティングオートメーションに関して、日本の第一人者であるシンフォニーマーケティング(株)社長の庭山一郎氏が、「B to Bのためのマーケティングオートメーション」のテーマで講演を行った。

「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告」

市場調査委員長 石井 啓太

「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」は、毎年、日本フォーム印刷工業連合会の会員を対象に行っているもので、今回は「2014年度の実績」を基に「2015年度の実績」を比較して回答を頂いた。回答者は60社で回答率は51.7%と、前年から



微増している。売り上げはほぼ横ばいと答えた企業が最も多く、48社(80.0%)。経常利益に関しては「減少した」と答えた企業が2015年度調査より減っており、やや改善している傾向が見える。

特徴的な傾向のまとめ

データプリント印刷に関する取り組みを行なっている企業は増加しており、回答者の41社71.1%(昨年回答は37社61.4%)が展開している。また、2015